



みどりの里

宇奈月小学校だより
5月号・第2号
令和6年5月15日

目指す子供像 うんとかんがえる子 なかよくする子 つよいからだの子 きれいなところの子
黒部市立宇奈月小学校 〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山205番地1 URL <http://www.tym.e.ed.jp/>
TEL(0765)65-2288 FAX(0765)65-2800 E-mail unazuki-es@tym.ed.jp

外遊びをして、学力アップ !!

校長 齊木 裕

宇奈月小学校のアクションプラン（P3、4参照）の1つに、「休み時間や放課後に、積極的に外や体育館等で体を動かして遊んだり、運動したりする子供の割合80%以上を目指す」と設定しています。ねらいは、体力や運動技能の向上、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てることにあります。

子供たちが、大休憩（10:05～10:25）、昼休み（12:55～13:15）にグラウンドに出て、よく遊ぶ姿が見られます。数にすると50～60人いるようです。体育館にもたくさんの子供たちがいるので、合わせると90人くらいです。教職員と一緒に活動していることが、たくさんの子供たちが外遊びをしている要因であると考えています。



最近読んだ本の中に、次のような内容が目にとまりました。

学習とは、情報を伝達するための神経細胞どうしを新しく結び付けることである。

運動が3つのレベルで学習を助けていることは明らかである。1つ目は、気持ちがよくなり、頭がすっきりし、注意力が高まり、やる気が出てくる。2つ目に、新しい情報を記録する細胞レベルでの基盤として神経細胞どうしの結び付けを準備し、促進する。そして、3つ目に、脳の海馬の幹細胞から新しい神経細胞が成長するのを促す。

では、どんな運動がいいのだろう。有酸素運動と複雑な動きの組み合わせである。

【ジョンJ.レイテイ（医学博士）著 脳を鍛えるには運動しかない】

この本は、運動が学習に良い影響を与えることを科学的に証明しています。確かに自分自身も学校だよりの毎月の巻頭言を書こうとしたとき、机に向かってもなかなかアイデアが浮かばないことがあります。そんなとき、ウォーキングやジョギングをすると、アイデアが浮かぶことがたびたびあります。それは、偶然ではなくこの本に書いてあるように運動中は、いつも以上に脳に血液が流れ、脳が活性化するのだろうと感じました。

子供たちに置き換えて考えてみます。大休憩や昼休みに外遊びや体育館で遊ぶことにより、3、4時間目、5、6時間目の授業を集中して取り組むことができたり、より多くのことを記憶・理解できたりするのではないかと思います。



学校では、アクションプランの達成のため、積極的に体を動かしたり、運動したりすることを勧めていきます。ご家庭においても子供たちが、生涯にわたって、運動する習慣を身に付けるために、声かけをしてくださるとありがたいです。

学習参観・PTA総会・学年・学級懇談会 ありがとうございました



4月19日（金）に学習参観・PTA 総会・学年・学級懇談会がありました。進級して間もない時期でしたが、どのクラスも意欲的に学習に取り組んでいました。保護者の皆様、たくさん参観してくださり、ありがとうございました。また、学年・学級懇談会では、子供たちの家庭での様子等を聞かせていただき、感謝申し上げます。今後の指導の参考にさせていただきます。

PTA挨拶運動・PTA総会



令和6年度のPTA総会が行われました。PTA会長さんが、今年度のPTA活動スローガン「その向こうへ、子供たちの未来を繋ごう」を提示し、活動への熱い思いを語られました。令和5年度の役員の皆様、

1年間ありがとうございました。感謝申し上げます。令和6年度の役員の皆様、1年間よろしくお願いいたします。

6年生が税金について学びました



社会科の学習で公益社団法人魚津法人会から2名の方をお迎えし、税金について学習しました。税金は私たちが健康で豊かに生活するために使われていることを、楽しく教えていただきました。1億円の重さを実感しました。

1年生となかよくなるろう集会



5月2日（木）に「1年生となかよくなるろう集会」がありました。1年生一人一人が元気に自己紹介をしました。その後、「太鼓ドドンゲーム」を行い、異学年で太鼓の数だけ集まり、仲を深めました。

<令和6年度のアクションプランについて>

宇奈月小学校の目指す子供像は、「思いやりの心（徳）」「たくましい体（体）」「自ら考える（知）」で、それを達成するためにアクションプランを作成したので、お知らせします。

【アクションプラン1】

重点項目	学習指導（うんとかんがえる子・・・知）
重点課題	自主学習の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、「自主学習の充実」という重点課題を設定し、自主学習ノート3冊達成者には賞状を渡して賞賛することにより、自主学習ノートに意欲的に取り組む子供が増えてきた。一方で、学習内容について悩んでいたりと、自ら個別最適な課題を設定して主体的に取り組むことに苦戦したりする様子がみられた。 ・家庭での学習習慣の定着、自主学習への取組の個人差が大きい。自分から進んで課題を見つけて取り組む子供もいるが、与えられた課題に取り組むのが精一杯な子供もいて、自主学習に意欲をもたせる具体的な手立てが不十分であったと考えられる。
具体目標 数値指数	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の伸ばしたい力を見い出し、必要な学習内容を考えたり時間を調整したりしながら家庭学習に取り組む子供の割合85%以上を目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部会が主体となって、年間3回、「できたかなチェック」を行い、実態把握や方策の見直しを行う。（6月、11月、2月の1週間を予定） ・ノートに書く学習とタブレットを用いた学習とのバランスも考え、指導していく。 ・自主学習ノートについては、丸付け、シール、コメント、全学年3冊達成で授賞等の賞賛や励ましにより、意欲付けを図る。 ・学習参観の際にノート展を実施したり、自主学習の手引きを再度統一したりすることで、子供や保護者への啓発を図る。 ・校内にモニターを用意し、参考にさせたいノートの画像を表示する。 ・授業の終末に、その時間の学習内容を自主学習に取り入れるアドバイスをしたり、工夫して取り組んでいる子供のノートを紹介したり、学年便りに掲載したりすることにより、内容の充実を図る。

【アクションプラン2】

重点項目	生徒指導（なかよくする子・・・徳　きれいなところの子・・・心）
重点課題	自己有用感を育み、互いに気持ちよく関わることができる教育活動の実施
現　　状	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「他者との関わる中での望ましい姿」を意識し、放送やメッセージカード等を使って伝えてくことで、本人が気付いていない「他者の中での自分」を意識することにつながっている。 ・暴言が習慣化している子供が目立つ。保護者からも子供が使う言葉に不安を抱く声が聞かれる。一方で、よくないと分かっているはいても、どう言い直してよいのか分からないという子供の実態が明らかとなっている。
具体目標 数値指数	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉を考え、使うことができる子供の割合80%以上
方　　策	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が安心して活動できる環境づくり（温かい雰囲気、「ありがとう」を伝える習慣）を心がける。 ・まずは、慣れてしまっている不適切な言葉に違和感をもつことができるよう、教師が見逃さずに反応することで気付きを促していく。 ・教師が「適切な言葉の言い直し」を子供と一緒に考え、言い直すところまで指導する。その際、不適切な言動のみを指摘するのではなく、言葉を使ったときのよさに着目させ、互いによい気持ちになることに気付かせる。 ・学級活動や代表委員会、全校集会等を通して、子供自身が問題意識をもち、解決の方法を考えることができるように働きかける。 ・学年だよりや懇談会等で学校の取組を保護者に伝え、学校と家庭の両方で言語環境の改善に努めていく。 ・異学年交流を通して、思いやりの心を育成する。 ・昨年度実施した、教師からの「メッセージカード」を継続して行い、子供が自身のよさに気付くことができるようにする。

【アクションプラン3】

重点項目	保健指導（つよいからだの子・・・体）
重点課題	心身ともに健康な生活を営もうとする実践的な態度の育成
現　　状	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や放課後に、外や体育館等で体を動かして遊んだり、運動したりする子供の割合は、「とやまゲンキッズ作戦」、「できたかなカード」の結果では年間で80%となった。2年、3年、4年、5年の子供が運動している割合が高い。 ・学校保健委員会（すこやか集会）で、体の歪みや姿勢、運動が大切であることを学んだことで、運動をしようとする意識が高まりつつある。前年度実施した「運動大好き週間」では、全校で運動や体を動かす遊びに取り組むことができた。 ・前年度の身体計測によると、児童数の減少の影響もあり、肥満度20%以上の子供の割合が、県平均を上回っている学年が目立った。運動量を確保するとともに、体重コントロールの意識付けを行う必要がある。
具体目標 数値指数	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や放課後に、積極的に外や体育館等で体を動かして遊んだり、運動したりする子供の割合80%以上を目指す。
方　　策	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が外や体育館で遊んだり、運動したりしている実態を把握するために、アンケート等を実施して課題を明らかにする。特に、「すこやかチェック」で、学校の休み時間等で週3回以上運動したかを調べることで、休み時間の過ごし方を見直す機会とする。 ・学校保健委員会では専門家からの指導を受け、運動することによって心や体の健康につながるということについて学び、進んで運動する態度を育てる。